

温小4年生

総合学習で有珠山観察

洞 爺湖温泉小学校の4年生の児童(8人)が、5月12日総合学習の一環で、「春先の火山を見てみよう」と、有珠山の西山火口南口から散策路を歩き、火口を観察しました。

この学習は、夏は洞爺湖、秋は実り、冬は雪など四季折々をテーマにそって体験していくもので、年間105時間組まれています。

この日は、南口の駐車場で、環境省洞爺湖自然保護官事務所の加藤さんと浅田さんの指導で、コーラを使って噴火の仕組みを再現する実験を行い、マンテルが溶け出し、マグマだまりができ噴火する工程を、図表を見ながら全員で

確認しました。このあと、とうやこ幼稚園の遺構を通り噴火火口まで歩き、火山の脅威について実感しました。



噴火遺構を歩く温泉小の児童たち

噴火遺構で石ころビンゴ いろいろな石の発見に一喜一憂

火 山の噴火などで地球の中から出てきた石を、ビンゴゲームをしながら集める「石ころビンゴ」(洞爺湖ビジターセンター主催)が、金比羅災害遺構公園で行われ、親子づれ9人が参加し、ゲームを楽しみながら噴火について考えました。

ビンゴカードのように、赤い石、水に浮く石などと書いたカードを手にし、それに合う石を歩きながら探していくゲーム。砂防施設や町営温泉、公営住宅の遺構の説明を聞きながら、いろいろな色や形、重さの石をビンゴになるように探しました。

子どもらは、カードと同じ石を見つけるたび歓声をあげ、大人たちは「いつも何気なくみていたけどいろんな石があった」と新しい発見に喜んでいました。



石ころを見つけて確認する子どもたち

町

内の地場産物や特産物を格安に提供する第33回洞爺湖観光朝市(観光朝市協議会=岡崎進会長)が、洞爺湖遊歩道



多くの人が押し寄せた洞爺湖観光朝市

駅前棧橋前の特設会場で、5月16日オープンし、春の新鮮な野菜などが並びました。

初日には、アスパラ、ウド、フキ、タケノコなどのもぎたての春野菜や新鮮な山菜が市価よりも安く提供され、地域住民やホテル宿泊客などで賑わいました。

同朝市は、9月20日までの毎週日曜日の午前6時~8時までの開催で、これからも季節に合わせた新鮮な地元の野菜や特産品が提供されます。

今年も観光朝市オープン 新鮮で格安な野菜や山菜提供

洞

爺湖漁業協同組合(篠原功組合長)が、湖の豊かな自然に触れてもらおうと毎年実施している、温泉小の児童を招いてのヒメマス放流が、5月24日行われました。



コップに入れた稚魚を放流する温小児童たち

この日、参加したのは温泉小1、2年生21人で、4カ月間で約5センチに育ったヒメマス5千匹とサクラマス1万5千匹の稚魚を放流。

コップに移し変えた稚魚を「大きく育てね」との願いをこめて、児童らは月浦の湖畔から放流しました。

同組合では、今年全体でヒメマス3万匹、桜マス5万匹の計8万匹を3カ所で放流しました。

「大きく育てね」 温小1、2年生ヒメマス放流



まちのわだい